

## 【感染症の登園基準について】

感染症には様々な種類がありますが、集団生活においてはどれもかかりやすく、特に乳児では重症化する危険を伴います。

0～6歳までのたくさんのお子どもが過ごす保育園ですので、大流行することのないよう早めに予防接種を受け、感染症にかかった場合は完治し、体調が回復するまでご家庭で十分に休養してください。

登園許可が必要な病気（完治後の登園は必ず登園許可書を提出してからのお願いになります）				
病名	潜伏期間	感染する期間	主な症状	登園可能な基準
麻疹	10～12日	発疹の前後5日	発熱・粘膜疹・発疹	発疹に伴う熱が下がった後3日を過ぎ元気が良いとき
風疹	14～21日	発疹の前後7日	発疹・軽熱・リンパ節腫大	発疹が消失したとき
水痘	11～20日	水疱の前後	軽熱・発疹から水疱になり、かさぶたになる	すべての発疹がかさぶたになったとき
おたふくかぜ	14～24日	症状の前後7日	発熱・咽頭と粘膜の炎症	腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
百日咳	6～15日	感染後3週間	発作性咳の長期反復と持続	特有の咳が消失したとき
プール熱 (アデノウイルス)	5～6日	発症前後5日	発熱・咽頭と結膜の炎症	解熱し、主要症状がなくなって2日を過ぎてから
インフルエンザ	1～2日	発症前後10日	高熱・全身倦怠・筋肉痛・咳	発症後5日を経過し、且つ解熱後3日を過ぎて元気が良いとき
流行性角結膜炎 (アデノウイルス)	1週間以上	発症後約2週間	軽熱・頭痛・結膜の炎症・目やに	治癒するまで（有効治療開始後、2週間を経過してから）
急性出血性結膜炎	1～2日	発症後約4日	流涙・結膜充血・眼瞼浮腫	治癒するまで
結核	3カ月～ 数10年		慢性的な発熱(微熱)・咳・疲れやすさ・食欲不振・顔色の悪さ	医師により感染の恐れがないと認められるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	4日以内	治療後24時間経過するまで	発熱・頭痛・嘔吐	医師により感染の恐れがないと認められるまで
腸管出血性大腸菌感染症	3～4日		激しい腹痛、頻回の水様便、更に血便。発熱は軽度	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し48時間あけて連続2回の検便がいずれも菌陰性確認

医師の指示のもと、症状によって登園できる病気（登園届を提出してからのお願いになります）				
病名	潜伏期間	感染する期間	主な症状	登園可能な基準
ヘルパンギーナ	2～7日		高熱・咽頭痛	解熱し食事を摂れて元気になったとき
手足口病	2～7日	水疱消失まで	かぜ様症状・手足口の発疹・水疱	発疹・水疱が乾いていて、食事がとれる
伝染性紅斑（りんご病）	17～18日	発疹出現前の1週間	顔面発赤・頬の赤斑性発疹	元気がよければ登園可能
マイコプラズマ肺炎	2～3週	治療薬を開始する前と開始後数日間	咳・発熱・頭痛 中耳炎・発疹等を伴うこともある	発熱や激しい咳が治まっていること
RSウイルス	4～6日	呼吸器症状のある間	呼吸器症状	呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと
带状疱疹	不定	水泡を形成している間	水疱	全ての発疹が痂皮化してから

突発性発疹	9～10日		3日間程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現する	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルスなど)	ノロ 12～48時間 ロタ 1～3日	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄している)ので注意が必要	嘔吐と下痢	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
溶連菌感染症	2～4日	発疹前から発症後7日	発熱・咽頭痛・莓舌・リンパ節炎	有効治療を始めてから24時間経ってから

※胃腸炎（感染症）の場合、医師によっては（**お腹の風邪**）と診断されることもあります。